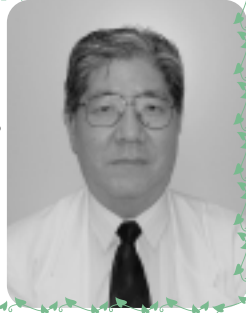


長年 地域医療に尽力 春日院長(奥出雲病院)を表彰

町立奥出雲病院の春日正己院長が、9月18日、全国自治体病院開設者協議会並びに全国自治体病院協議会(東京都)から、「へき地医療貢献者」として会長表彰を受賞されました。

春日院長は、国立舞鶴病院院長などを歴任され、仁多町(当時)の強い要請を受け、平成3年に町立仁多病院(現奥出雲病院)の外科医長に着任。平成15年からは院長に就任されています。この間、病院の移転新築をはじめ、平成13年には、県内2例目(当時)となる電子カルテシステムの導入に尽力されました。

また、在宅医療にも熱心で、訪問診療の実施や各種健康教室、講演など予防医療にも献身的に尽力されているほか、地元中高生の体験学習や実習生の受入れなど、将来の医療技術者の育成に、積極的に取り組まれています。



全国自治体病院協など

仁多ライオンズクラブ(山本勝昭会長)が、同クラブ例会一〇〇回の開催記念事業として、心停止状態に陥った人の救命措置に用いる、AED(自動体外式除細動器)を町に寄贈することになり、九月十日、井上町長に目録が手渡されました。



目録を読み上げる山本会長(左)

仁多ライオンズクラブから「AED」を寄贈

すが、その内の一台として設置させていただきます。

秋の交通安全運動に合わせ、JA雲南とJA共済連島根から奥出雲町にカーブミラー十七基が寄贈されました。九月二十四日、JA雲南の飯塚総常務理事が役場を訪れ、「人命保護と被害軽減に役立てて下さい」と趣意書と目録を井上町長に手渡しました。井上町長から「大切に使用していただき、交通事故撲滅に役立てたい」とお礼の言葉が述べられました。



目録を井上町長に手渡すJA雲南飯塚常務理事(左)

JA雲南・共済連島根カーブミラー17基を寄贈

今回寄贈を受けたカーブミラーは、各地区からの要望などを考慮して、順次設置して行きます。

平和への誓い新たに 戦没者追悼式

先の大戦で尊い生命を捧げられた戦没者の冥福を祈る「奥出雲町戦没者追悼式」(町、社会福祉協議会主催)が、九月十二日、カルチャープラザ仁多で開催されました。

式典には、各地区の遺族会会員など約二百八十人が出席し、八百九十三柱の御霊に追悼の意を送り、一分間の黙祷や全員で霊前に献花を手向け、ご冥福を祈りました。井上町長は「先の大戦から



献花を手向ける参列者

学び取った多くの教訓を改めて心に深く刻み、世界の恒久平和の確立と奥出雲町のさらなる発展を誓います」と式辞がありました。

また、遺族を代表して三沢地区遺族会の高橋晴美さんから「日本の今日の平和と繁栄は、尊い英霊の犠牲の上に成り立っています。悲しい歴史を二度と繰り返さないことを固く誓います」と追悼のことがありました。



追悼のことは述べる高橋晴美さん

終戦から六十四年の歳月が過ぎ、町内でも遺族の高齢化が進み、戦争の記憶は徐々に薄れつつあります。私たちは、戦争の悲惨さ、平和の大切さを再認識し、後世に伝え、郷土の発展に努めて行かなければなりません。

力強い太鼓の響き

第5回

奥出雲太鼓祭



仁多乃炎太鼓



第五回奥出雲太鼓祭が十月三日、三成運動公園野球場で開催されました。県内外から十四団体が出演し、約六時間にわたり、多彩な演奏などで会場を魅了しました。ステージは、三成保育所や三成幼稚園のかわいらしい太鼓演奏で幕開けし、小学生、中学生による太鼓グループの演奏、また今年結成された神楽社中奥出雲神代神楽や地元バンドグループなどが、同頃の練習の成果を披露しました。また県外からは、橘太鼓響座(宮崎県)やプロの太鼓団体、舞太鼓あすか組(奈良県)が、勇壮な八丁さばきで観衆を魅了していました。ファイナルは、地元仁多乃炎太鼓が、力強い太鼓演奏を披露しました。会場には、地元の食材を味わうフナントが立ち並び、来場者は、奥出雲の食を味わいながら太鼓演奏を満喫していました。



三成幼稚園「なかよし炎太鼓」



約2000人が来場



三成保育所「子どもげんぎ太鼓」



橘太鼓「響座ジュニア」



仁多中学校「仁多誠心和太鼓」



奥出雲神代神楽社中

稲田神社 町指定文化財に・・・

奥出雲町教育委員会では、稲田神社の本殿、拝殿、通殿、幣殿の四棟を「町指定有形文化財」に指定しました。

本町における町の指定文化財としては、これで13件目となります。

〔稲田神社の概要〕

稲田神社は、昭和7年から7か年をかけて造営された、近隣にない大規模な神社です。専門家によると、大社造りの本殿を中心に、幣殿、拝殿、通殿等の主要な社殿は、建築当時の姿をそのままに伝え、更にそれぞれの建物が同一軸線にあり、一貫した社殿計画によって建築されたことがうかがえます。

